

愛犬との
ふれあいの俳句



春

佐怒賀正美 選

特選

犬の顔また描く春や筆走る

赤峰 里美

【評】

愛犬への愛情は様々な形で表現されるが、この作者は犬を絵に描くことが何よりも楽しみなのであろう。寒い冬が去り、犬の表情もやや穏やかになった。その柔らかい犬の顔を描く。絵筆も柔らかい線を残して「走る」ように進む。

朧夜の犬との散歩Bコース

石山 敏郎

【評】

愛犬との散歩道はいつも同じコースとは限らない。今夜は朧月が情緒たつぷりに出ている。ならば、いつものコースをちよつと外れた自然あまたのBコースにしてみよう。犬も主人の心躍りを察していつもよりゆつたり歩む。

出入りする子と保護犬の新入生

浦上 昭一

【評】

たとえば、春になり保護犬を飼うことになったのだろう。子どもたちも保護犬に逢いに、毎日のように作者の庭に出入りするようになった。子どもも保護犬とともに仲良し新入生。お互いに新しい生活の始まりを喜んでる。

愛犬も我も春泥ど真ん中

佐藤 公

【評】

散歩していたら、野原に犬が走り出して行った。作者も追いかけるように後を追った。気がついたら、犬も作者もぬかるみの春野のど真ん中。あらあら、でもこんなことも春ならではの出来事。犬も作者も泥んこを楽しむ。

やぎミルク犬も持参や花見舟

佐藤眞知子

【評】

やぎミルクは栄養価も高く、適切に飲ませれば効用もあるらしい。「犬も」とあるので、作者は自分用のほかに愛犬用の「やぎミルク」も持参して花見舟に乗ったようだ。こんな風景ものんびり温かくてよいものだ。

入選

丘の上犬の背を抜く春一番

占部 耕三

犬抱きて飛ぶ水たまり春の雲

大谷 昌子

亡き犬の写真は増えぬ春の闇

折田祐美子

抱かれてしだれ梅嗅ぐ白き犬

熊川ゆかり

主亡し散歩の犬と春探す

小林のぶ子

佳作

梅の香に犬もまどろむ昼下がり

荒木 史江

ちよつとだけ犬に分けたき桜餅

沖野 晶子

犬掲げ香り分け合ふ梅見かな

葛西 則子

野遊びや女兒がわが犬撫でにくる

鹿島 由美

蛙とは初顔合わせ子犬の目

北内 康文

蛙跳び犬が首ふるたんぽみち

木村 達雄

ふわりふわり愛犬耳毛に春の風

栗原 智美

愛犬と戯れ合う生き甲斐春麗ら

佐藤 聖太

犬の食むやはらかさうな黄たんぽぽ

佐藤 節美

愛犬と孫と目で追うしゃぼん玉

佐藤 優子

主のごと花見の場所取る大型犬

辻本 智江

初午や犬も許され餅拾う

中島史奈子

恋猫を邪険に吠えることはせず

野上 卓

受験子の帰宅仔犬と待ちわびる

星月彩也華

飛べそうに尾を振る犬よ春の空

前田 千文

擦れ違ふ犬を褒め合ふ春の土手

杉本 谷夫

春浅し犬に引つ張られる婦人

須藤 茂夫

散る桜浮かぶ水面に犬遊び

高地 雅美

老犬に今おだやかな春の風

竹澤 聡

春一番犬氣をつかう散歩道

都築 広子

おそろのおそろ土手の土筆を嗅ぐ子犬

中原 政人

春一番散歩の犬もひき返す

中村 暁代

残雪や寝転ぶ犬と子ども等と

細江 美幸

揚げたてのポテト犬カフエ日永なる

山島 美紀

絵手紙に梅とチワワと初孫と

渡会 克男

募集要項

■日本で唯一の「犬」をテーマにした俳壇です。愛犬とのふれあいの中で得た感慨を俳句にしてご応募ください。
■一般部門と児童・生徒部門（中学生以下）の2部門があります。
■原則として、五・七・五の17音でまとめてください。
■募集期間は「春（1～3月）・夏（4～6月）・秋（7～9月）・冬（10～12月）年4回の開催で、開催ごとに最終月末に締め切ります。

■応募作品には、四季折々の「季節（季節を表す言葉）」を入れてください。
■ハガキの裏面に以下の必要事項をはっきり楷書で明記してください。①作品（自作未発表に限り、ハガキ1通につき2句まで）②住所氏名（ふりがな）、年齢、性別、電話番号 ※おひとり何通でもご応募いただけます。
■送り先 〒101-8552 東京都千代田区神田須田町1-5（一社）ジャパンケネルクラブ広報課「愛犬とのふれあいの俳句」係

入賞・発表

■開催ごとに以下の入賞句を選出します。
特選…5句
入選…10句
佳作…20句以内
児童・生徒の部入選…若干句
※入賞された方には記念品（図書カード）をお送りします。入選句は会報誌『JKCガゼット』に掲載されます。